

第2章 基本計画

1. 基本構造

(1) 名称

全体の名称は「松戸市生涯学習基本計画」とします。

実施計画の部分は「松戸市教育改革」とし、「アクションプラン」並びに「教育資源有効活用実施計画」としてまとめます。

(2) 目的

最終目的

「自立した市民社会の構築」

松戸市生涯学習基本計画の目的

「市民一人ひとりが生涯にわたり、自分らしく自己を追求し、自己実現を図るとともに、市固有の風土・文化を大切に継承・発展させ、誇りと愛着を育めるような教育環境づくりを行う。」

(3) 目標

生涯にわたる学習の意欲を高めます。

家庭・地域の教育力を高めます。

地域の自立性を高めます。

(4) 基本的手段

児童生徒に基礎基本を定着させる学校教育を行います。

学校を核とした地域コミュニティづくりを推進します。

多様な支援を可能にする教育システムを構築します。

評価システムを構築し、教育情報を公開します。

施策の実現のための確かな財源を確保します。

(5) 期間

平成15年度～平成19年度の5か年についての計画を作成します。

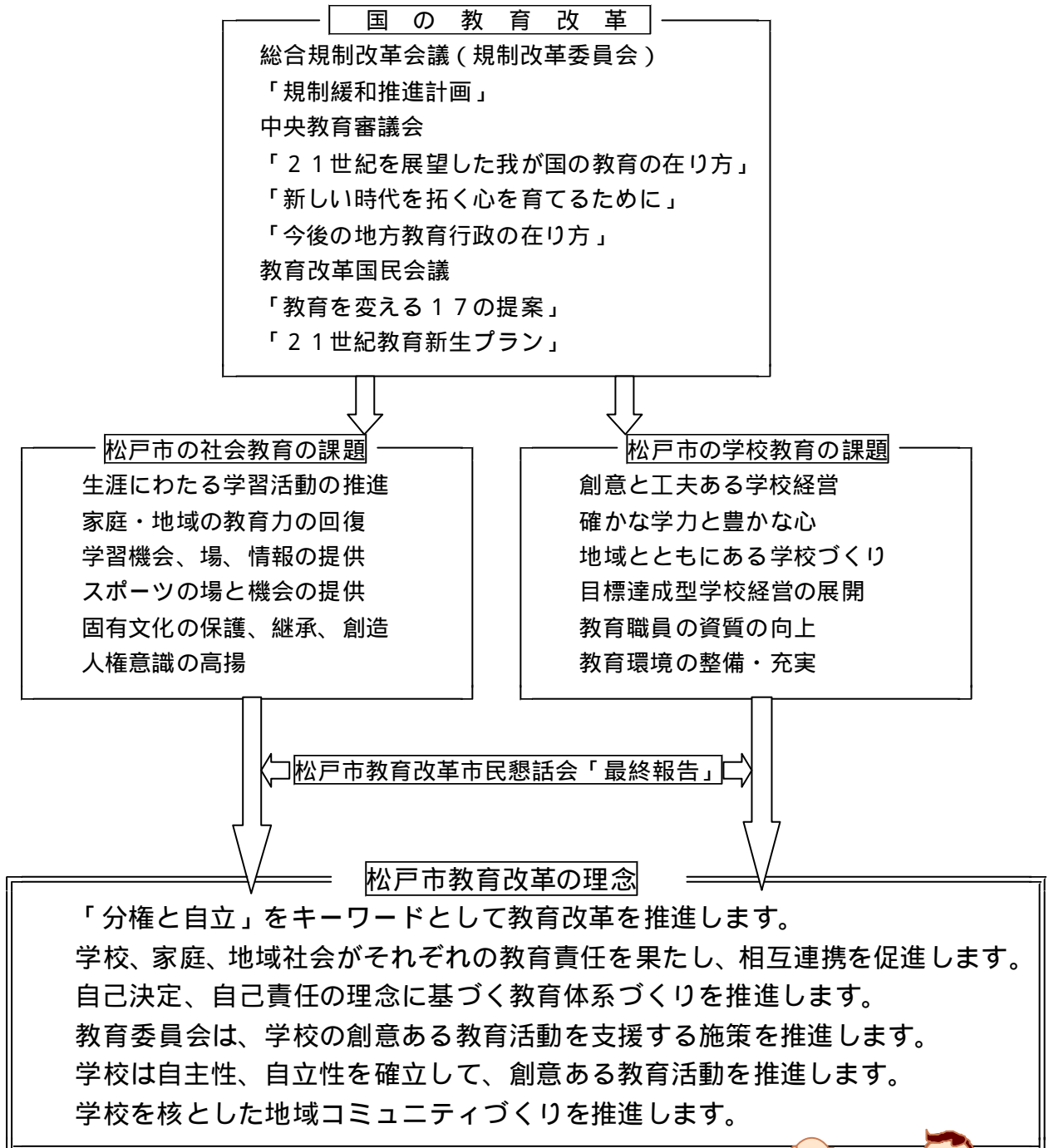
実施開始年度が後半の事業は次の計画に引き継ぐものとします。

2 . 基本的な考え方

(1) 理念

(図 2)

松戸市教育改革の理念



(2) 方針

施策推進の方向性

変化に対応することに留まることなく、自ら変化を創り出します。

各施策は時代と次代に相応しい「改善」と「改革」を実施するものでなければなりません。松戸市教育改革は現状にそぐわない事象に対応して「改善」を図る従前からの営みだけではなく、次代を見据えて創造的な「改革」を実施します。

個に総合的に対応します。

定形枠の内容を完成度高くこなすという日本の得意なシステムが高度成長の日本を創り出しましたが、成長するに従い枠をはみ出してくるニーズについての対応が要求されるようになりました。しかし、現在社会の多様なニーズには、もはや一対一対応ではなく、総合的政策をうつことが必要であると認識しています。

また、これからの少子高齢化社会でますます必要となる個性や能力に応じた教育についての創造的、具体的な施策を迅速果断に実行に移します。個への対応は教育施策、教育内容に共通したニーズです。

新しい「公共」の観点に立ちます。

「協働」から、さらに一歩進んで、市民が行政に要求してつくるこれまでの「公共」ではなく、国や社会の問題を行政も市民も自分自身の問題として考え、その解決に向けて主体的、積極的に行動して「公共」を創り上げ、行政も市民もそれらに対して責任を持つ、という観点に立って、施策を実施します。情報連携等と併せて、市民と行政のパートナーシップの確立・強化を推進します。

施策の進め方

評価を中心としたPDCAのマネジメントサイクルを採用します。

的確なマネジメントの実施により、各年度毎に評価活動を行い、改善点を次年度に反映させるアカウンタビリティを果たすと共に施策を実効性のあるものにします。

Plan	計画する。
Do	実行する。
Check	審査する。(評価する)
Action	改善の行動を起こす。

実施年数を限定したサンセット方式を採用します。

施策の実施年数を予め決定し、結果に依らず施策の廃止を行います。その施策の継続可否については、厳しい審査を実施するなど、限られた財源を有効に使うためのシステムの一つとして採用します。

区分を超えた資源の配分を工夫します。

社会教育、学校教育の区分を超えた教育に関する資源(人、知恵、施設、財源等)の再構築とその適正な配分について、十分な工夫をします。

(3) 全体構造

大項目で23、小項目で数えると50近くにもぼる施策は、全体として一つの総合的な政策として構成されています。ほとんどの施策が有機的な結合状態にあり、施策相互の関連の度合いも異なるという立体的で複雑な構成を持っています。捉えようとする視点や次元により、構図はそれぞれ異なるものとなりますので、その中の一つとして次ページの全体構造図を提示します。

図の下部に平成15年2月提出の「松戸市教育改革市民懇話会最終報告」からの4つの視点を配置し、上部に全体的な目標として「自立した市民社会」、さらに学校教育として「明日のための学校づくり」、社会教育として「新しい地域コミュニティづくり」をそれぞれ掲げています。

それらの目標を達成するための実施計画を中央に配しました。

それぞれの施策一つ一つが刺激やきっかけとなって、全体として大きな改革のうねりを生み出すという願いを込めて“ Incentive Innovation Plan”(動機付けとなる改革)という名称の計画にまとめ、「生涯にわたって(マ)学び(ツ)続ける(ド)土台を築く松戸の教育」をスローガンとして提示しています。

構造図の「3つの基盤」は「教育資源の整備」、「学区制緩和の推進」、「IT環境の充実促進」から構成されていますが、「学区制緩和の推進」と「IT環境の充実促進」は、それぞれ非常に重要な基盤として、他の多くの施策とリンクしています。一方の「教育資源の整備」は実質的に、「資源の再配分」、「教育活動の評価活動」及び「研修システム」の3分野の重要な各施策に分類されています。人、知恵、施設、財源等の教育に関する資源を再構築し、整備することは文字通り本教育改革の基盤となり、具体的には確かな評価活動を基にした教育資源の有効活用と育成という視点から施策を構成しています。

それらの基盤上に総合的な施策を4つにグルーピングしています。学校教育に重点化した「学校づくりを支援するプラン(子どもいきいきアシストプラン)」、家庭、地域や諸教育機関などの連携を中心とし、社会教育に重点化した「新しい教育連携を創るプラン(リエゾンプラン)」、さらに「豊かな心」を育むために家庭や地域に対しての活動となる「家庭と地域の教育を支援するプラン(ハートフルプラン)」、学校、家庭、地域、それぞれにおいて既成の枠を超えた新しい動きとなる「新しい教育システムを創るプラン(ニューウェーブプラン)」の4つのプランとなります。

全体として7つにグルーピングした施策は、教育行政の基盤的なものとなるものとそれらを受けて実際の総合的な教育活動となるものの大きな二つに分け、前者は「3つの基盤」後者は「4つのプラン」として次ページの構造図に示しています。それぞれの機能が発揮され、リンク作用が働き、松戸市教育改革として包含された考え方が実現へと導かれることとなります。



(図 3) 教育改革全体構造

別 掲 教育改革全体構造

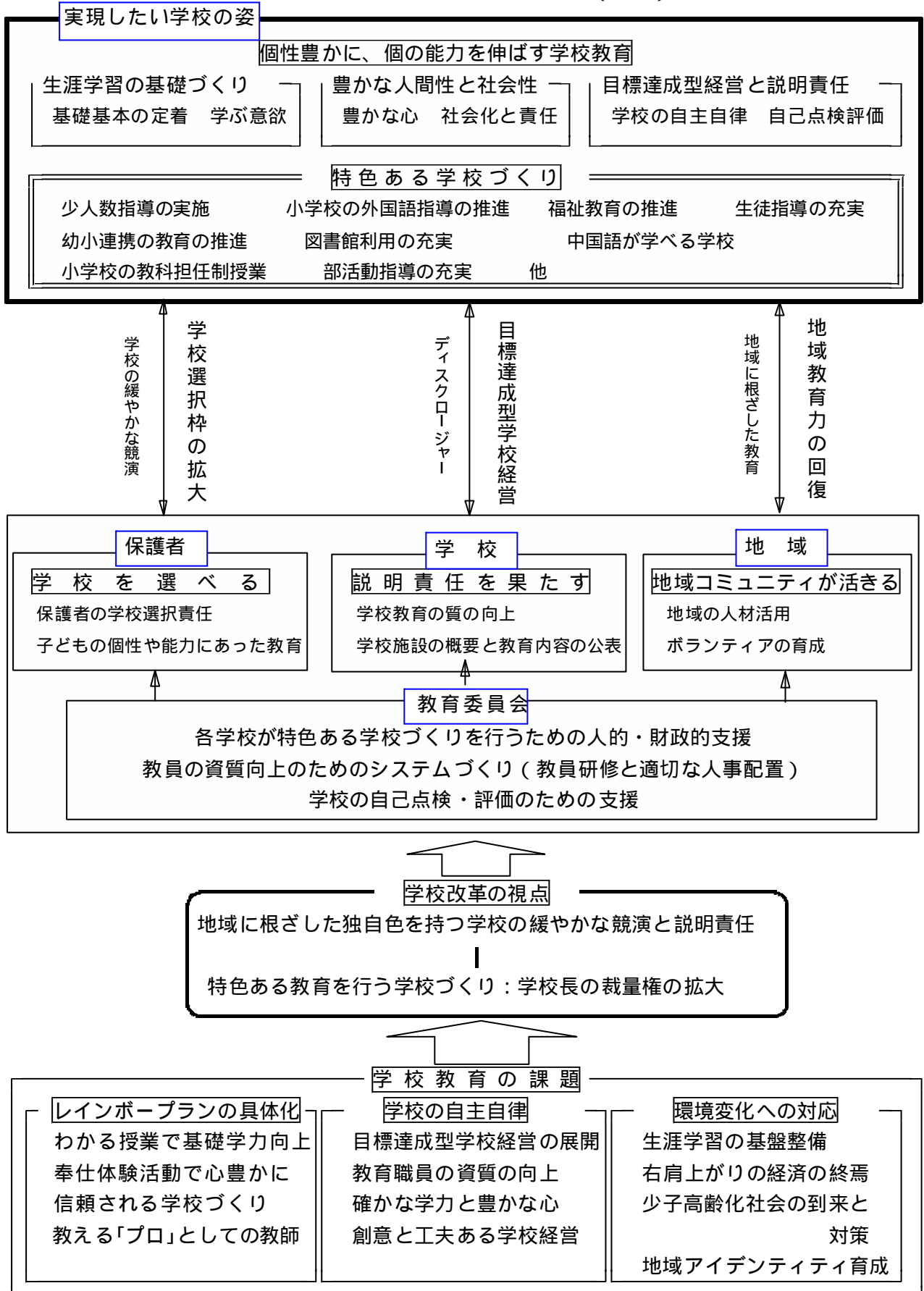
(4) 目指す生涯学習

別 掲 生涯学習全体図

(图 4) 生涯学习全体图

(5) 目指す学校教育

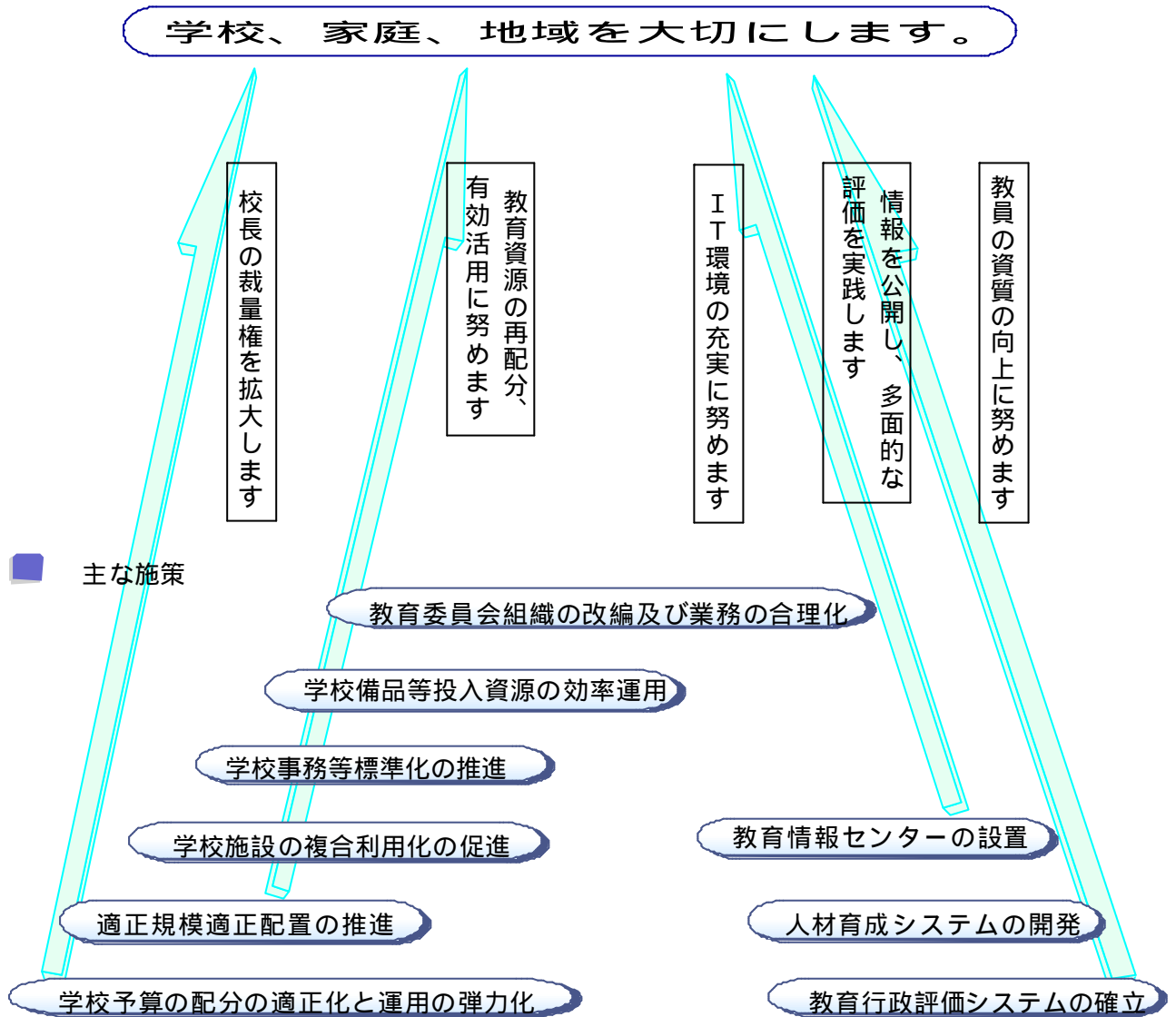
(図 5) 学校教育全体図



3. 主な施策と期待される変容

(1) 市教育委員会は

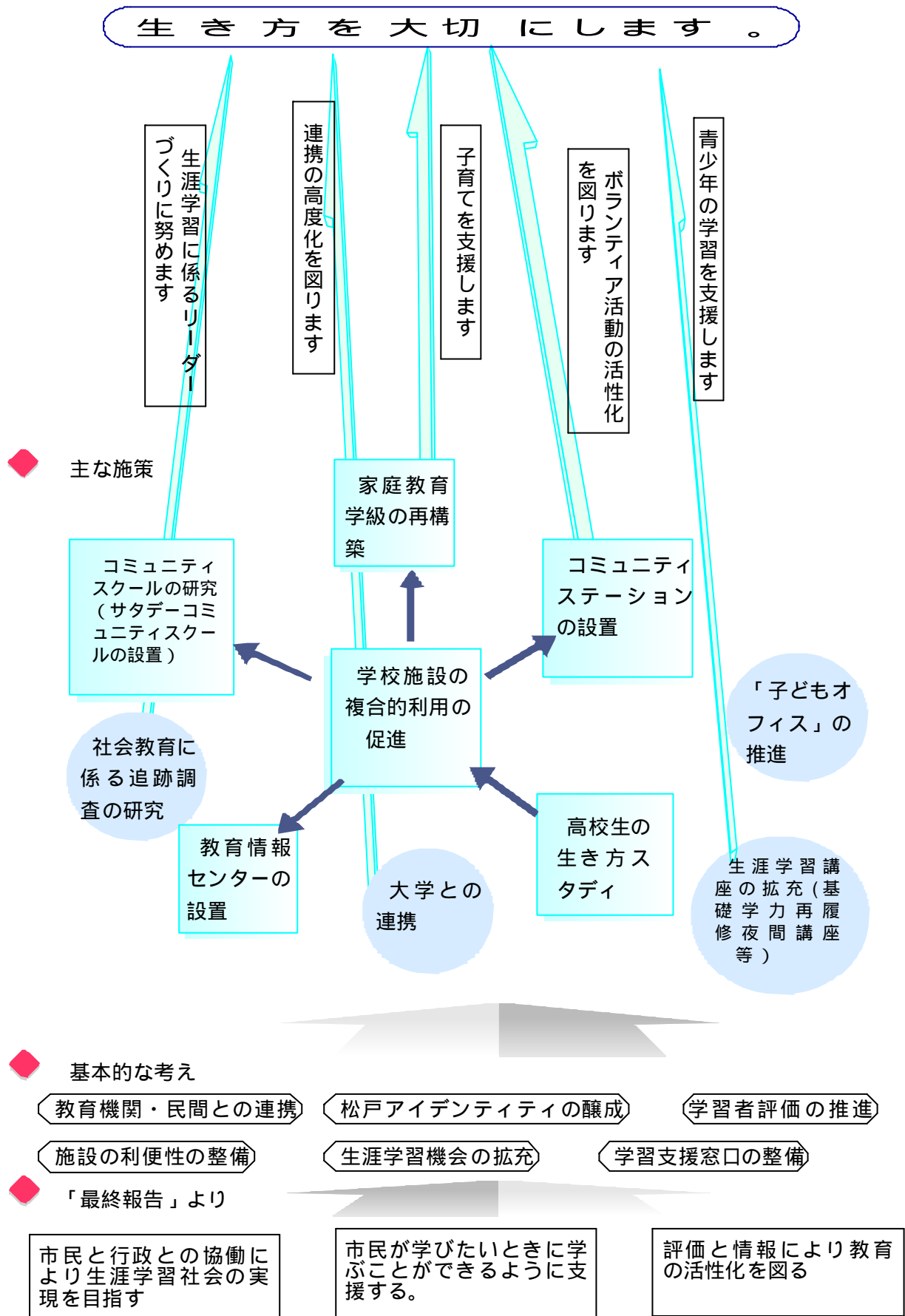
(図6) 変容



- 教育資源活用的高度化
- 資源の有効活用
- 市教委組織の改編の研究
- 研修の改善
- 教育行政評価システムの構築
- 多面的評価の研究
- 教育財政システムの見直し
- 学校評議員制度等第三者的機関の活用
- 教員の指導力向上と学習支援者の育成

「最終報告」より

- 市民と行政との協働により生涯学習社会の実現を目指す
- 多様なニーズを踏まえ、確かな財源に支えられた総合的対応を行う
- 評価と情報により教育の活性化を図る



個を大切にします。

評価・研修に力を入れ、
教員の資質向上に努めます

家庭、地域のニーズに応えるために
校長の裁量権を拡大します

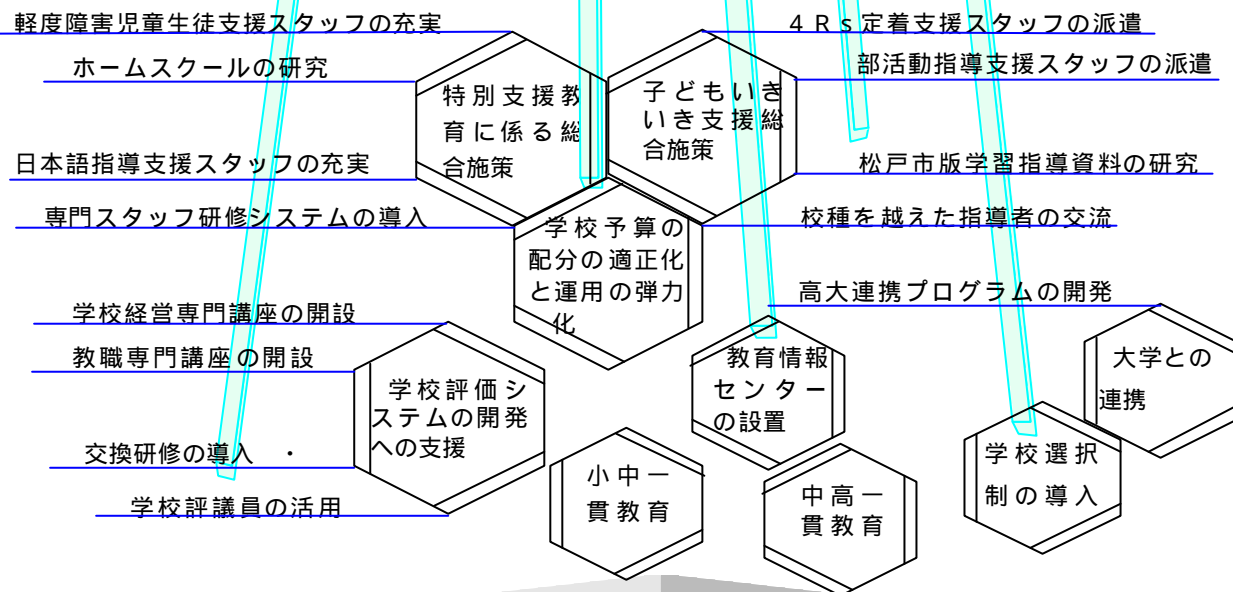
必要なスタッフを派遣します

情報の公開、発信、受信に努めます

基礎学力の定着を図ります。

学校を選ぶことができる
制度を導入します。

主な施策



基本的な考え

- きめ細かな指導の充実
- 確かな学力の定着
- 4 R s の徹底
- 適応指導の多様化
- 学校への地域参加&学校の地域参加の促進
- 研究開発校の推進
- 学校種間の連携

「最終報告」より

多様なニーズを踏まえ、
確かな財源に支えられた
総合的対応を行う

確かな学力を形成する
学校教育を推進する

評価と情報により教育
の活性化を図る

